ゆめ半島 千葉国体 2010

国体の記憶 ❽

「山ざんまい」だった高校時代

このコーナーに登場してくれる人を募集します。くわしくは広報課（☎20－1503）へ。

海上 章司さん（東和田）
土屋生まれ。昭和47年、成田高校在学中に山岳競技で鹿児島国体に出場、優秀賞を獲得。

体力はもちろん、知識や経験、綿密な準備が求められる登山は、まさに対自然の「総合力」を試されるスポーツだ。山岳部に所属した高校時代、その「山登り」に打ち込んだ。3年間で頂を臨んだ数は、80以上。「1・2カ月に1度は山に入っていました。〝山道楽〟といわれても仕方がないですよね」と苦笑いする。

山岳部を選んだのは、ふとしたことからだった。たまたまのぞいた部室に飾られていた、これまで見たこともない美しい山々の写真。「こんな世界があるのか」。中学までやっていたバスケットボールに見切りをつけ、すぐ入部を決めた。

体力に自信はあったが、山岳で求められるスタミナは半端ではない。夏山で30kg、冬山では40kgを超える荷物を背負って歩き続けなければならないからだ。そのため、部活での練習は「かなりきつかった」。成田山公園の池の周りをへばるまで走らされたり、平和大塔下の階段を先輩を背負って昇り降りさせられたり。合宿前は、山の地形や装備・食料など必要なことすべてを記す「登山計画書」作りに没頭。競技で課題とされる天気図の作成は、ラジオの短波放送を聴きながら練習した。耐え切れずやめていく仲間もいる中、確実に体力と知識・技術が身に付いていた。

3年時に県大会で優勝し、鹿児島国体へ。開催地は、現在世界自然遺産に登録されている屋久島だった。群青色の海とありのままの自然。島で待っていた島民総出の熱烈な歓迎。心を奪われたそれらの光景は、40年近くたった今でも鮮明に記憶にとどまっている。

「また行きたいですね」。仕事柄、休みが取れず山に入ることはめっきり少なくなったが、毎日のウォーキングは欠かさない。

「山登りは、年を取っても自分なりのペースで続けられる。高校時代からの夢〝アルプス・ヒマラヤ〟だってまだあきらめていませんよ」

屋久島・宮之浦岳で
（写真中央が海上さん）

編集後記

最後の卒業生を送り出し閉校となった豊住中学校。私も、卒業した小学校が、中学校跡地への移転のため取り壊された経験があり、消え行く母校に対する思いに共感を覚えます。以前の西中学校がそうであったように、郊外の子と町場の子が新しい友だちをたくさん作り、楽しい学校生活を送ってほしいと思います。

成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年5月15日号 No.1147　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成21年5月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課　〒286-8585 花崎町760番地　電話22-1111（大代表）
広報なりたは再生紙を使用しています。